

2026 年度事業計画 (JU)

中期計画	2026 年度事業計画		
I 「教育力」の強化			
1. 教育の質保証の徹底 ①教育の質検証と教学マネジメント体制の整備（内部質保証の実質化と内部質保証システムの検証） ②教学マネジメントへの学生の参画推進 ③IR 機能強化 ④各学部・各研究科・全学の 3 ポリシーの検証 ⑤国家試験合格率の向上	1. 教育の質保証の徹底 ①- 1 内部質保証推進のための学長・教務部を中心とした全学的な体制整備 ①- 2 教育の質保証のための第三者機関（地域の自治体等）との検証システムの整備 ①- 3 内部質保証の方針の適切性及び組織連携概要図の検証 ①- 4 学部・研究科における「学習成果の可視化」推進（特に、学生の学習成果の進捗状況、理解度や達成度を把握する体制整備） ②- 1 学生の意見を教学マネジメントに取り入れる仕組みの整備（学生と協議する場の設置） ③- 1 教学 IR に基づいた全学の課題の洗い出しと必要な分析 ④- 1 全学の 3 ポリシーの実現状況の検証 ⑤- 1 国家試験合格率目標 ◇薬剤師国家試験（新卒）85%以上（2025 年 3 月 本学 81.7%/全国平均 84.4%） ◇管理栄養士養成校（新卒）90%以上（2025 年度 3 月 本学 89.4%/全国平均 80.1%）		
<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①大学設置基準に基づいた教員数、教授数の確保、人事規程の管理徹底 ②学生アンケートを活用した学習者本位の学びを提供(カリキュラム改正を含む) ③国家試験合格率向上：目標 薬剤師国家試験(新卒)全国平均以上 管理栄養士養成校(新卒)全国平均以上 </td></tr> </table>	評価指標	① 大学設置基準に基づいた教員数、教授数の確保、人事規程の管理徹底 ② 学生アンケートを活用した学習者本位の学びを提供(カリキュラム改正を含む) ③ 国家試験合格率向上：目標 薬剤師国家試験(新卒)全国平均以上 管理栄養士養成校(新卒)全国平均以上	
評価指標	① 大学設置基準に基づいた教員数、教授数の確保、人事規程の管理徹底 ② 学生アンケートを活用した学習者本位の学びを提供(カリキュラム改正を含む) ③ 国家試験合格率向上：目標 薬剤師国家試験(新卒)全国平均以上 管理栄養士養成校(新卒)全国平均以上		
2. 教育改革（学生の能力を最大限高めるための学修者本位の教育の実現）の展開 ①全学共通基盤科目の開講 ②データサイエンスを加味した文理融合教育の確立とリベラルアーツ教育モデル策定 ③全学共通科目の一元管理と科目数の適正化 ④アクティブラーニング型授業の推進 ⑤知識に偏らない教育（課外活動、インターンシップ・ボランティア）の推進 ⑥GPA 制度の検証と活用及び学生目線に立った教育プログラムへの改善 ⑦卒業時アンケートの実施・公表・活用	2. 教育改革（学生の能力を最大限高めるための学修者本位の教育の実現）の展開 ①- 1 全学共通基盤科目「協創力体験演習 I・II」の理解度・達成度の検証と「協創力実践演習」の新規開講 ②- 1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの修了推奨 ②- 2 全学レベルで関連科目を点検しリベラルアーツ教育モデルを策定（リベラルアーツ教育に関する科目を 6 分野に仕分け） ③- 1 科目の位置づけをより明確にし、設置科目の適正化のために、 <u>関連科目を分類 1（専門分野に関連する科目）と分類 2（分類 1 以外の科目）に区分する、分類 2 について、全学共通科目として位置づけることを検討</u> ④- 1 全授業に対する <u>アクティブラーニング型授業の採用率 70%以上</u> （2025 年度 65%）		

評価指標 ①数理データサイエンス・AI プログラムの全学生の履修 ②全学共通科目の一元管理の徹底 ③全学共通科目数の適正化：目標 3 割削減 ④卒業時アンケートの実施・公表・活用：アンケート実施率目標 90%	⑤-1 <u>協創力実践演習において、企業と連携し、実践型 PBL で授業展開を実施</u> ⑤-2 <u>海外研修やボランティア活動等の学生主体の学びに学事暦が適応しているか検証</u> ⑥-1 <u>学生自らがJU ポートフォリオの理解を深めるとともに、積極的な活用促進</u> ⑥-2 <u>大学独自の学生アンケートを廃止し、学生目線から大学教育や学びの実態把握を目的とする「全国学生調査」に大学独自のアンケート項目も含め実施、回収率の向上推進</u> ⑥-3 <u>授業評価アンケートを利用し学生の理解度・達成度を検証</u> ⑥-4 <u>GPA により学生が学習成果を把握し、学習意欲が向上したかアンケートを実施。教員間、授業間で成績評価基準が平準化しているか検証</u> ⑦-1 <u>卒業生対象に在学中に身につけ卒業後役立ったことや本学に期待すること等、アンケートを実施し教育活動改善に活用</u>
3. 時代に即した大学院・学部教育への変換 ①組織変更・定員の適正化 ウェルビーイングや Society 5.0 の課題に挑む人財を育成する組織（学部・大学院）の新設・改廃の実施、大学全体の収容定員の適正化を、大学院を含め検討 ②社会人教育 社会人対象のリスキング、学び直しへの対応、リカレント教育講座の提供	3. 時代に即した大学院・学部教育への変換 ①-1 <u>現代政策学部社会経済システム学科の名称変更⇒総合政策学部総合政策学科</u> <u>（定員減）入学定員 250 名⇒240 名</u> ①-2 <u>理学部情報数理学科定員増：入学定員 60 名⇒80 名</u> ①-3 <u>理学部化学・生命科学科定員減：入学定員 90 名⇒80 名</u> ①-4 <u>薬学部薬学科定員減：入学定員 250 名⇒200 名</u> ①-5 短期大学在学生全員の卒業を確認し廃止認可申請 ①-6 短期大学基幹教員の文系学部への再配置を実施 ①-7 <u>経営学研究科（博士後期課程）開設：入学定員 3 名</u> ①-8 全学部の再編及び将来構想の検討（特に定員管理について改善案を策定） ①-9 経営学部スポーツマネジメント学科構想の検討 ①-10 <u>ネイティブ教員による実践的英語教育実現を目指すために、授業の外部教育機関への委託を試験導入</u> ②-1 社会人対象のリスキング及びリカレント教育講座の検討 ②-2 薬学部卒業生対象生涯教育講座の更なる充実 ②-3 ウェルビーイングに挑む人材を育成するための教育の検討
評価指標 ①経営学研究科博士後期課程の完成 ②理学部情報数理学科の定員増：60 名から 80 名へ ③薬学部薬学科入学定員の適正化：250 名から 200 名へ ④リカレント教育講座履修者：目標 50 名 4. 学修環境の整備 ①学生の意見を取り入れた学習環境の提供	4. 学修環境の整備 ①-1 <u>学習環境の改善のため学生アンケートを実施</u>

②学生の学ぶ意欲を高めるための学習環境の整備（図書館の効率的な活用、スポーツ施設・課外活動施設の充実、キャンパスバリアフリー化及び通信環境整備） ③川角駅学園口周辺道路整備事業の推進 ④理学部情報数理学科開設に伴う紀尾井町 3 号棟増築 <table border="1" data-bbox="159 495 791 640"> <tr> <td>評価指標</td><td> ❶学生の図書館利用率：目標 100% ❷学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ❸教室の Wi-Fi 設置率：目標 100% </td></tr> </table>	評価指標	❶学生の図書館利用率：目標 100% ❷学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ❸教室の Wi-Fi 設置率：目標 100%	①- 2 学生との意見交換の場を設置し、<u>学生の意見を集約・反映する仕組みを構築</u> ②- 1 <u>シャトルバスの利用状況を調査し、効率向上とサービスの最適化推進</u> ②- 2 学生ニーズに対応した講義室、演習室等の改修 ②- 3 スポーツ施設及びスポーツクラブ寮の一部改修と維持・管理 ②- 4 キャンパスバリアフリー化推進 ③- 1 <u>4 月着工の川角駅学園口周辺道路整備事業について、日本医療科学大学・明海大学と協力し事業費の一部を毛呂山町に寄附</u> ④- 1 理学部情報数理学科開設に伴う紀尾井町 3 号棟増築工事開始		
評価指標	❶学生の図書館利用率：目標 100% ❷学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ❸教室の Wi-Fi 設置率：目標 100%				
II. 「学生支援力、就職・進学支援力」の強化					
5. 修学支援の充実（障がい学生支援含む） ①奨学金制度・学納金減免制度の検証と改善 ②教職員が連携した、学生相談体制及び学修指導体制の整備 ③障がい学生に配慮した学習環境の整備 ④学生のウェルビーイングの推進 <table border="1" data-bbox="159 1160 807 1451"> <tr> <td>評価指標</td><td> ❶高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ❷出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ❸学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員） </td></tr> </table> 6. 正課外教育の推進 ①クラブ、サークル、ボランティア活動、地域貢献活動等へのサポート体制の充実 ②正課外活動の安心・安全を確保し法令順守への取組強化 ③課外活動活性化及び参加率の向上 <table border="1" data-bbox="159 1921 807 2022"> <tr> <td>評価指標</td><td>❶クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成</td></tr> </table>	評価指標	❶高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ❷出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ❸学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員）	評価指標	❶クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成	5. 修学支援の充実（障がい学生支援含む） ①- 1 JASSO（貸与型）奨学金利用学生に対し卒業後の「返還義務」を周知徹底 ①- 2 <u>高等教育の修学支援新制度について、令和 7 年度より多子世帯まで支援が拡充、情報共有の徹底</u> ①- 3 スポーツ奨学生、特待生入試制度及び学業成績優秀者奨学金等の検証と改善 ②- 1 授業出欠状況を把握するために、<u>モニタリング科目を設定し、速やかな状況把握を行うためのフローの策定</u> ②- 2 <u>全学的なピア・サポート体制構築</u> ②- 3 出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の検証と改善 ③- 1 障がい学生のニーズと多様性に配慮した学習環境の整備 ④- 1 多様化する学生相談に対応するために、カウンセラーの充実と情報共有体制の徹底 6. 正課外教育の推進 ①- 1 クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの検証及び<u>クラブ・サークルの部長・監督・コーチの役割明確化</u> ②- 1 部費及びクラブ助成金の管理体制の徹底と検証 ②- 2 ハラスメント研修及びコンプライアンス研修の実施 ②- 3 <u>大学スポーツの不祥事の早期発見と調査、処分、再発防止のための対応フローの策定</u> ③- 1 課外活動の活性化及び参加率の向上 参加率目標
評価指標	❶高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ❷出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ❸学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員）				
評価指標	❶クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成				

②課外活動活性化及び活動参加率向上：目標 50%	2025 年度 48%⇒ 2026 年度 目標 50%
7. 退学・休学の防止 ①学生目線の入学前教育、新入生オリエンテーション及び初年次教育の充実 ②退学者予備軍（出席が芳しくない学生、休学者等）の早期発見と教職員が連携したサポート体制の強化 ③退学者防止委員会を設置し、休退学の真因を把握・分析し対策を講ずる体制整備	7. 退学・休学の防止 ①- 1 教務部・学生支援部・各学部が連携し、<u>入学前教育から初年次教育への接続について、全学的な取り組みとして推進</u> ①- 2 <u>スチューデントリテラシーの実施及び受講状況、理解度などの評価結果について検証</u> ②- 1 <u>学習意欲低下など、修学上問題を抱えている学生の早期発見</u> ○取組の一例：モニタリング科目を指定⇒定期的 に出席状況調査⇒一定の条件に当てはまる学生を抽出⇒ 面談⇒早期発見 ③- 1 退学者防止委員会と各学部が共同した防止策策定 ・出席が芳しくない学生への面談及び父母への連絡を全学 標準化 ・ゼミ教員と学生との面談機会の確保 ・経済的困窮者への支援 ③- 2 休退学者防止 FD・SD 研修会の実施 ③- 3 退学率目標：2%台、休学者目標：1%台 (2026 年 2 月末現在 退学率 2.4% 休学率 3.0%) (2024 年度退学率 3.3% 休学率 2.7%)
8. キャリア教育及び就職・進学支援の充実 ①キャリアデザインポリシーのもと、キャリア教育、キャリア支援の充実を図る ②社会の動向や学生ニーズを捉え、学生の希望・能力・個性に応じたキャリア支援体制整備 ③障がい学生のキャリア支援強化 ④外国人留学生及び多様性に応じたキャリア形成・キャリア支援 ⑤学部・研究科就職率の向上	8. キャリア教育及び就職・進学支援の充実 ①- 1 キャリアデザインポリシー（社会的・職業的自立に関する方針）のもと初年次から学生の希望・能力・個性に応じたキャリア支援体制の充実を図り、個別指導やガイダンス等のサポート体制を強化 ①- 2 キャリア教育充実のため<u>教務部とキャリアサポートセンターとの連携を強化</u> ②- 1 ハローワーク等の公的機関及び保護者との連携による進路選択支援を強化 ②- 2 学生アスリートへのスポーツキャリア教育支援とデュアルキャリア及びセカンドキャリア教育プログラムの検討 ②- 3 <u>中高校教師・公務員等の就職率アップのための支援強化</u> ③- 1 障がい学生のキャリア支援体制の整備（特に、公的機関及び関連団体との連携強化） ④- 1 外国人留学生を対象としたガイダンス及び企業説明会の実施
評価指標 ①退学者防止委員会の設置 ②出席が芳しくない学生への個別面談及び父母への連絡を全学標準化 ③退学率目標 2%台、休学者目標 1%台	評価指標 ①就職率目標：各学部 95%以上、各研究科 95%以上

	④-2 キャリアサポートセンターと国際部が共同した外国人留学生国内就職の推進 ⑤-1 就職率 目標：各学部 95%以上 研究科 95%以上 (2026 年 3 月卒：学部 98% 研究科 100%)		
III. 「ブランド力・学生募集力」の強化			
9. 大学ブランド力の強化 ①本学の強みを活かした魅力ある大学像の発信 ②ステークホルダーから選ばれる大学ブランドの構築 ③教育研究能力の向上と社会への発信 ④大学情報の SNS での発信強化 <table border="1" data-bbox="159 801 805 952"> <tr> <td data-bbox="159 801 295 952">評価指標</td><td data-bbox="295 801 805 952"> ①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増 </td></tr> </table> 10. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①高大連携事業の推進（特に入学前既修得単位認定制度の推進） ②オープンキャンパスの集客を高めるための取り組み強化 ③学生ニーズに合致した募集活動の推進（高校生の心をつかむ学生募集広報及びデジタルマーケティングの強化） ④受験生にとって魅力ある奨学金制度への転換 ⑤女子学生及び埼玉県内の学生確保のための施策の構築 ⑥全学部入学定員確保、大学院入学者増	評価指標	①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増	9. 大学ブランド力の強化 ①-1 本学独自のカリキュラム「<u>協創力の可視化</u>」並びに広報の強化 ①-2 地域資源を活用したブランド商品の開発推進 ②-1 本学の良さを分析し、他大学にない魅力を見つけ出し、ステークホルダーに伝えるためのブランディング戦略（TEAM JOSAI）の推進と広報方針の明確化 目標：大学ブランド・イメージ調査 60 位以内（120 大学中） ②-2 在学生、卒業生へのアンケート、インタビューを実施し、学生が持つ印象と本学が伝えたいイメージを一致させる取組（コミュニケーションブック制作等）を推進 ②-3 <u>キャンパスを活用した映画プロジェクトによるブランディングと入試募集の強化</u> ③-1 研究成果のメディアへの発信を強化 目標：年間プレスリリース本数 50 本以上 (2025 年度 21 本) ④-1 大学情報の SNS での発信を強化 目標：前年度比 50%増（2025 年度 632 本） 10. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①-1 本学教員による高校での探究型学習の実施と本学教職員及び在学生による高校の総合探究ゼミ発表会へのサポートを推進 ①-2 高大連携による入学前既修得単位認定制度の推進 ②-1 学生募集活動（オープンキャンパス含む）での学部間、特に文系 3 学部の連携を強化 (オープンキャンパス集客率 目標：前年度比 20%増) (2025 年度実績：3,434 名) ③-1 入学定員確保に繋がる各種デジタル媒体を活用した新たな入試戦略及び映画プロジェクトの推進 ③-2 <u>年内入試での入学定員確保のために、高大連携・指定校ネットワークの強化並びに入試の利便性・透明性の向上</u>
評価指標	①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増		

評価指標	①オープンキャンパス集客率：目標 20%増 ②女子学生比率増：目標 10%増 ③入学者確保：目標 大学 入学定員総数確保：1,660 人 大学院 定員充足率 80%以上	④-1 本学が定めた <u>各種検定試験の資格取得者に対し入学金を免除する、けやき奨学金制度の導入</u> ⑤-1 ブランド力向上のための施策と通学・教育環境の整備を実施 ⑤-2 埼玉県内の学生確保のために、 <u>埼玉県、さいたま市、川越市、近隣市町村などの自治体や企業との連携強化</u> ⑤-3 女子学生比率向上：在籍学生総数に占める女子学生の割合 30%以上（2025 年度 27%） ⑥-1 全学部入学定員確保：総数 1,610 人 ⑥-2 大学院目標：定員充足率 80%以上
IV. 「国際力」の強化		
11. 国際交流基盤強化と支援体制の確立 ①海外の高等教育研究機関との連携・協力体制の推進 ②海外協定校の見直し ③国際交流支援体制の構築 ④学生と協同したキャンパス内の国際交流の推進 ⑤国際部の機能強化 ⑥別科の日本語教育機関への認定を検討 評価指標 ①城西「ファン」の留学生ネットワーク構築 ②国際業務において高度で専門的な知見を有する職員の育成・確保 12. 外国人留学生の受け入れと就学環境整備 ①外国人留学生の戦略的なリクルーティングと本学独自の奨学金制度の検討・充実 ②外国人留学生受け入れ体制の整備と募集・在籍管理体制強化 ③在籍学生総数に占める外国人留学生数(非正規生含む) 目標値 10%確保 ④別科から学部、大学院への進学ルートの確立 評価指標 ①秋入学定員の設置届出 ②在籍学生総数に占める外国人留学生数増：目標 10%以上 ③別科から学部、大学院への進学者：目標 10 名以上		11. 国際交流基盤強化と支援体制の確立 ①-1 海外の大学・研究機関との連携・協力体制の推進 ②-1 海外協定校の再考（重点協定校の設定、海外提携校・日本語学校等との連携強化） ③-1 学生の国際通用性を高めるためのグローバル人材育成プログラムの構築 ③-2 外国人留学生目線で本学の魅力を発掘・磨き上げ海外発信を強化 ④-1 城西「ファン」の留学生ネットワークの構築 ⑤-1 国際業務において高度で専門的な知見を有する職員の育成 ⑥-1 日本語教育機関認定法申請に関する検討及び申請内容・スケジュールの確認 12. 外国人留学生の受け入れと就学環境整備 ①-1 東アジア、南アジア及び東南アジア方面の AP に一致した留学生受入拡充に向け、戦略的なリクルーティング（海外募集活動・海外入試）や本学独自の奨学金制度を検討 ②-1 文部科学省適正校への対応と出入国在留管理庁の適正校継続のための国際部と学部事務室との連携による在籍管理体制の構築 ②-2 留学生確保のために国内外の日本語学校との連携及び海外募集の推進 ②-3 秋入学定員の検討 ②-4 <u>学部留学生授業料減免制度の見直しと減免率の変更を検討（減免率 0%～30%）（2025 年度 30%減免）</u>

13. 在学生の海外留学促進 ①AIを活用した語学教育や教育の国際化を推進 ②留学機運の醸成と安心して留学にチャレンジできる環境整備 ③海外留学・海外インターンシップの促進体制の更なる整備 ④海外留学者数増を目指す <table border="1" data-bbox="159 808 805 907"> <tr> <td>評価指標</td> <td>①海外留学者数増：目標 長期留学 10 名以上、短期留学 130 名以上</td> </tr> </table>	評価指標	①海外留学者数増：目標 長期留学 10 名以上、短期留学 130 名以上	②-5 <u>大学院留学生授業料減免制度の廃止を検討</u>（2025 年度 30%減免） ③-1 在籍学生総数に占める外国人留学生数(非正規生含む) 目標：10%（2025 年度約 6%） ④-1 別科から学部、大学院への進学者の拡充 目標：学部・大学院へ 10 名以上（2025 年度 4 名） 13. 在学生の海外留学促進 ①-1 AIを活用した語学教育や教育の国際化を推進 ②-1 安心して積極的に留学にチャレンジできる環境整備（経済支援、就職支援等） ③-1 留学促進に繋がる施策検討のために海外留学制度の点検・評価を実施 ④-1 海外協定校等への海外留学の推進 目標：長期留学 10 名以上（2025 年度 9 名） 短期留学：130 名以上（2025 年度 86 名）
評価指標	①海外留学者数増：目標 長期留学 10 名以上、短期留学 130 名以上		
V. 「研究力」の強化			
14. 国際的研究成果の創出・発信と外部資金獲得の向上 ①各分野をリードする研究成果の創出 ②地域課題を解決する研究成果の創出と国内外への発信強化 ③外部研究資金の募集情報の提供と申請サポート等、応募者への支援体制整備 ④科研費補助金助成事業、共同研究、受託研究等の外部資金等の採択数増 <table border="1" data-bbox="159 1503 805 1742"> <tr> <td>評価指標</td> <td> ①公表論文、学会発表の件数増加：目標 30% 増 ②研究倫理 e-learning「eL CoRE」受講の徹底：基幹教員受講率目標 100% ③外部資金獲得の向上：目標 20%増 </td> </tr> </table> 15. 研究費の管理運営体制整備 ①全学的な研究支援専門部署の検討 ②研究支援マネジメント人材の育成・確保 ③公的研究費の管理運営体制及び指針・規程の見直し・整備 ④FD 研修会の実施、コンプライアンス教育及び啓蒙活動の強化	評価指標	①公表論文、学会発表の件数増加：目標 30% 増 ②研究倫理 e-learning「eL CoRE」受講の徹底：基幹教員受講率目標 100% ③外部資金獲得の向上：目標 20%増	14. 国際的研究成果の創出・発信と外部資金獲得の向上 ①-1 社会課題に応える戦略的研究の推進 ②-1 地域自治体と共同し、大学が持つ研究資源を活かし、地域課題を解決する仕組み構築 ③-1 外部資金獲得者へのインセンティブを検討 ③-2 科研費補助金申請に関する研修会の実施 ③-3 科研費補助金申請書の添削サポートの実施 ④-1 科研費、共同研究及び受託研究の採択数増に向けた、教員の意識の醸成 科研費新規採択数目標：前年度比 10%増 （2025 年度新規 16 件） ④-2 <u>国際競争力を有する研究や若手研究者の支援を拡充</u> 15. 研究費の管理運営体制整備 ①-1 全学的な研究支援部署(学務課研究支援係)の体制整備 ②-1 競争的研究費や外部資金の獲得を強化するために、研究プロジェクト企画・牽引等に携わる人材の育成
評価指標	①公表論文、学会発表の件数増加：目標 30% 増 ②研究倫理 e-learning「eL CoRE」受講の徹底：基幹教員受講率目標 100% ③外部資金獲得の向上：目標 20%増		

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 208 296 416">評価指標</td><td data-bbox="296 208 807 416"> ①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関するFD実施：目標 年2回以上 </td></tr> </table>	評価指標	①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関するFD実施：目標 年2回以上	③-1 公的研究費の管理・監査のガイドラインについて、関係指針及び規程を点検・見直し体制を整備 ③-2 <u>寄附講座を設置し、民間企業等からの寄附をもとに教育研究活動の強化</u> ④-1 公的研究費の管理運営に関するFD研修会の実施とコンプライアンス教育及び啓蒙活動の強化 ④-2 研究倫理教育プログラムの見直しと支援体制の再構築
評価指標	①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関するFD実施：目標 年2回以上		
VI. 「地域連携・社会貢献力」の強化			
16. 地域連携活動推進と地域人材育成並びに教育研究成果の地域への還元 ①大学リソースを活用した地域貢献 ②地域が必要とする人材の育成 ③地域連携活動が持つ価値と意識の醸成 ④教育研究成果の社会への還元 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 965 296 1256">評価指標</td><td data-bbox="296 965 807 1256"> ①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携したAI・DSコンソーシアム協定締結 </td></tr> </table>	評価指標	①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携したAI・DSコンソーシアム協定締結	16. 地域連携活動推進と地域人材育成並びに教育研究成果の地域への還元 ①-1 大学と地域のリソースを効果的に融合・活用し、地域が求める人材の育成や地域ブランドの開発を各学部が連携し実施 ②-1 地域に特化したインターンシッププログラム等の開発を促進 ②-2 地元企業等への短期・長期インターンシップ等を通じてビジネスマナーやマーケティング戦略等を学ぶ取組を促進 ③-1 地域連携活動（ボランティア、地域課題への取組等）を学内に浸透させる取組を強化 ③-2 <u>川越都市圏まちづくり協議会（通称：レインボー協議会）などの地域協議会への参加</u> ④-1 シンポジウム、生涯学習講座、市民講座、展覧会及びスポーツ教室等の開催 ④-2 情報数理学科と千代田区で協定を締結し紀尾井町AI・DSコンソーシアムの推進
評価指標	①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携したAI・DSコンソーシアム協定締結		
17. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決への寄与 ①持続可能な地域協創のための産学官金連携の構築 ②地域ニーズと大学シーズのマッチング ③関東圏での共同研究・受託研究の拡大 ④産学官連携プラットフォーム（TJUP等）を活用した地域課題解決への寄与 ⑤産学官金連携対応事務部門の確立 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1771 296 1962">評価指標</td><td data-bbox="296 1771 807 1962"> ①地域課題解決のための指針・プログラムの提案：目標 2件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大：目標 2件以上 </td></tr> </table>	評価指標	①地域課題解決のための指針・プログラムの提案：目標 2件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大：目標 2件以上	17. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決への寄与 ①-1 自治体、大学及び地域企業が協創して、地域の課題解決に向けた新たな商品、サービス、価値観等をつくり出す取組を推進 ②-1 近隣自治体等との包括連携を通じて、本学の教育・研究資源を地域活性化及び地域課題の解決に役立てる取組を推進 ③-1 関東圏での共同研究・受託研究の拡大 ④-1 産学官連携プラットフォーム（TJUP等）を活用した、教育・研究活動を推進 ⑤-1 産学官金連携対応事務部門の検討
評価指標	①地域課題解決のための指針・プログラムの提案：目標 2件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大：目標 2件以上		

VII. 「IT・DX 推進力」の強化

18. IT 推進力の強化

- ①IT システム強化と利用促進
- ②IT推進に必要な人材の育成・確保
- ③ITシステムに対応するネットワーク環境の見直し

評価指標	① 情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成 ② 無線 LAN 環境整備 ③ 学内 LAN 主要機器更新
------	--

19. DX 推進力の強化

- ①業務の DX 化推進
- ②DX 推進に必要な人材育成・確保
- ③各部署の DX 化業務推進内容とシステムを把握する仕組み確立
- ④ 生成 AI 活用のための環境整備

評価指標	① FAQ 環境整備 ② 組織全体の DX 化を推進するための職員の確保・育成 ③ 生成 AI 活用講座等の受講を促進し、全ての職員が生成 AI を活用し業務の効率化と生産性を向上
------	---

20. 情報システムの整備・情報セキュリティの強化

- ①授業方針・教育環境に対応できるシステムの導入
- ②ICT 教育、オンライン授業の環境の整備
- ③紀尾井町を含む、JIU とのネットワーク環境の整備
- ④SSO 運用（ID 管理の一元化）整備
- ⑤情報セキュリティ体制の確立と周知徹底

評価指標	① Campus-Xs と GAKUEN を比較し、教学事務システムの更新 ② オンライン授業の環境及び理解度に関する学生アンケート実施 ③ 情報セキュリティ研修の実施：目標 毎年度 2 回以上
------	--

18. IT 推進力の強化

- ①- 1 ネットワークの保守・管理・運用体制の効率化
- ②- 1 IT 推進に必要な人材の育成
- ③- 1 無線 LAN 環境のメンテナンスと更新
- ③- 2 学内 LAN 主要機器のメンテナンスと更新

19. DX 推進力の強化

- ①- 1 AI ヘルプデスクの効率的な運用と FAQ 環境の整備
- ②- 1 組織全体へ DX 化を推進するために必要な人材の育成
- ③- 1 業務デジタル化プランの検討・策定
- ④- 1 生成 AI を活用した事務の効率化と生産性向上

20. 情報システムの整備・情報セキュリティの強化

- ①- 1 新教学事務システム（GAKUEN）の導入を推進
- ②- 1 ICT 教育環境の持続的・継続的な整備を推進
- ②- 2 学生が情報化社会に対応できるよう新入生に PC 購入補助 5 万円を支給、必携化を推進
- ③- 1 坂戸 - 紀尾井町間のネットワーク環境の共通化を検討
- ④- 1 SSO 運用に向けた環境を整備
- ⑤- 1 情報セキュリティ実施手順書の策定
- ⑤- 2 情報セキュリティ知識レベルの向上を目的に、専門機関による情報セキュリティ理解度チェックを推進
- ⑤- 3 学術認証フェデレーション（全国の大学や研究機関が参加する認証連携システム）への認証連携を推進

VIII. 「組織・運営力」の強化

21. ガバナンス体制の確立とコンプライアンス徹底

- ①教育・研究の質向上及び社会からの信頼を得るためのガバナンス改革
- ②組織・業務の透明性を高めるための体制整備
- ③大学の方針を構成員へ浸透させる取組強化
- ④法令順守、適正な大学運営及び社会的信頼の維持

評価指標

- ①中期計画で定めた 8 つの目標について、責任体制を明確にし、課題に迅速に対応できる体制整備
- ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる取組：目標 年 4 回以上
- ③大学設置基準の順守
- ④コンプライアンス違反を許さない健全な組織文化の醸成とリスクマネジメント体制の確立

22. 自己点検・評価

- ①内部質保証体制の再整備
- ②点検・評価の結果を教育の改善・向上につなげる内部質保証システムの構築
- ③第 3 期認証評価で指摘された事項への適切な対応
- ④第 4 期認証評価への準備

評価指標

- ①透明性、客観性を担保した内部質保証システムの有効性の検証：目標年 1 回以上
- ②第 3 期認証評価で指摘された課題、指摘事項への適切な対応：2027 年 7 月 31 日までに提出
- ③学習成果を基軸に捉えた内部質保証の重視と実質性」を問う第 4 期認証評価への準備

23. 現場力向上

- ①事務局の業務効率化と業務改善
- ②教職員の勤務評価制度の確立
- ③基幹教員制度の確立とクロスアポイントメント制度の推進
- ④サバティカル制度の運用

21. ガバナンス体制の確立とコンプライアンス徹底

- ①- 1 私立大学ガバナンス・コード実施項目の実施状況確認と改善
- ②- 1 中期計画で定めた 8 つの目標について、責任体制を明確にし、課題に迅速に対応できる体制を整備
- ③- 1 大学の運営方針や大学が取り組む教育・研究活動が、構成員及びステークホルダーに理解・浸透されているか検証
- ④- 1 役職教員及び管理職員の責任と権限を明確化するために規程を整備
- ④- 2 大学設置基準の順守
- ④- 3 コンプライアンス違反を許さない健全な組織文化の醸成とコンプライアンス教育・啓発活動の推進

22. 自己点検・評価

- ①- 1 学部・研究科における学位プログラムについて、PDCA サイクルを機能させ内部質保証体制を構築
- ①- 2 事業計画の達成度について、各部署が点検・評価し、課題が改善されているか検証
- ②- 1 透明性、客観性を担保した内部質保証システムの有効性を検証
- ③- 1 第 3 期認証評価で指摘された課題、外部評価委員の指摘及び自己点検評価における指摘点の適切な対応
- ④- 1 「学習成果を基軸に捉えた内部質保証の重視と実質性」を問う第 4 期認証評価への適切な対応

23. 現場力向上

- ①- 1 業務効率化と業務改善のために部署統合を含め事務組織の再編成を推進
- ①- 2 業務 DX 化の推進（④全部署での業務マニュアルの標準化 ⑤ペーパーレス化の更なる推進 ⑥新任教職員に対するメンター制及びチューター制の導入を検討）

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 208 288 517">評価指標</td><td data-bbox="288 208 807 517"> ①全部署での業務マニュアルの作成 ②職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④クロスアポイントメント制度の実施 </td></tr> </table>	評価指標	① 全部署での業務マニュアルの作成 ② 職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③ 教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④ クロスアポイントメント制度の実施	②- 1 職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ②- 2 教員勤務評価制度の導入に向けた課題の抽出 ③- 1 基幹教員のクロスアポイント制度の導入 ⑤- 1 教員の教育研究能力向上のためのサバティカル制度の検証と改善
評価指標	① 全部署での業務マニュアルの作成 ② 職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③ 教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④ クロスアポイントメント制度の実施		
24. 同窓会・父母後援会との連携 ①卒業生とのネットワークの整備と卒業生所在情報把握率改善 ②父母後援会地区懇談会等を利用した在学生父母との学生情報の共有 ③父母後援会、同窓会から大学への助成制度の継続 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 819 288 1059">評価指標</td><td data-bbox="288 819 807 1059"> ①ホームカミングデーの隔年開催 ②卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標 開催地区在籍者出席率 30%以上 </td></tr> </table>	評価指標	① ホームカミングデーの隔年開催 ② 卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③ 父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標 開催地区在籍者出席率 30%以上	24. 同窓会・父母後援会との連携 ①- 1 ホームカミングデー、学園祭をはじめとする各種交流会・懇談会の実施 - 1 卒業生の所在情報及びメールアドレス把握率の向上 把握率目標：80%以上（2025 年度約 70%） ②- 2 父母後援会地区懇談会を活用し、大学情報及び学生情報を共有し、退学者防止策につなげる取り組み強化 ③- 1 同窓会・父母後援会による学費補助制度、課外活動助成制度及びびけやき奨学金制度への助成並びに海外留学制度等への支援 ③- 2 同窓会による<u>卒業生子女入試受験料支援</u>
評価指標	① ホームカミングデーの隔年開催 ② 卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③ 父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標 開催地区在籍者出席率 30%以上		
25. 創立 60 周年記念事業及び記念催事の完遂 ①創立 60 周年記念事業の実施（記念式典、記念講演会、募金活動等） <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1317 288 1509">評価指標</td><td data-bbox="288 1317 807 1509"> ①記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ②記念講演会の実施 ③募金活動 個人・企業・団体への募金活動 </td></tr> </table>	評価指標	① 記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ② 記念講演会の実施 ③ 募金活動 個人・企業・団体への募金活動	25. 創立 60 周年記念事業及び記念催事の完遂 ①- 1 記念式典を通じ教職員の帰属意識や組織の一体感が構築・強化されたか検証 ①- 2 記念式典が本学ブランド・イメージの醸成・向上に役立ったか検証 ①- 3 <u>本学のこれまでの歩みを継承し、次の 10 年（70 周年）を見据えた新たなビジョン・方向性の構築</u>
評価指標	① 記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ② 記念講演会の実施 ③ 募金活動 個人・企業・団体への募金活動		

2026 年度事業計画 (JIU)

中期計画	2026 年度事業計画				
I 「教育力」の強化					
1. 教育の質保証の徹底 ①大学がその教育研究活動の質を社会に対し保証するため、教学 IR 等を活用して、教育に関する取組を検証・評価し、継続的に教育の内部質保証を推進する。 ②大学がその教育研究活動の質を社会に対し保証するため、大学設置基準と（厳選された教育プログラムに基づいた）教育体制（教員数・教授数の確保・基幹教員制度の活用を含む）を強化する。 <table border="1" data-bbox="159 784 805 1220"> <tr> <td data-bbox="159 784 284 1220">評価指標</td><td data-bbox="284 784 805 1220"> ①教育プログラム評価方法の構築・検証及び改善状況（教育プログラム評価方法を構築し、それに基づく検証を行い、改善計画を着実に実行するサイクルを確立） ②授業評価、卒業時アンケート及び卒業生・就職先アンケートの実施状況：学生満足度（上位の評価）を 80%以上 [第 2 期中毎年度] ③大学設置基準等に基づいた教員数・教授数を安定的に確保できていること。 </td></tr> </table> 2. 基盤教育の充実を核とする教育改革の展開 ①予測不可能な時代において、論理的思考力・表現力と主体的な学びの姿勢を基本とし、文化、社会、自然等に対する知識と理解を踏まえた上で、鳥瞰力、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を養うとともに、国際的視野を育み、専門教育の基盤を確立するため、全ての学びの基礎となる基盤教育を充実する。 <table border="1" data-bbox="159 1601 805 1982"> <tr> <td data-bbox="159 1601 284 1982">評価指標</td><td data-bbox="284 1601 805 1982"> ①現代社会の求める新たなリテラシー（数理・データサイエンス、情報科学、批判的思考、デザイン思考等）、STEAM 教育、外国語教育、SDGs 教育などの教育内容の体系化（カリキュラムマップに位置付け） ②1 年次学生の英語外部試験の状況：2 回目の平均得点が 1 回目より 5 %以上上昇 [第 2 期期間中の平均] </td></tr> </table>	評価指標	①教育プログラム評価方法の構築・検証及び改善状況（教育プログラム評価方法を構築し、それに基づく検証を行い、改善計画を着実に実行するサイクルを確立） ②授業評価、卒業時アンケート及び卒業生・就職先アンケートの実施状況：学生満足度（上位の評価）を 80%以上 [第 2 期中毎年度] ③大学設置基準等に基づいた教員数・教授数を安定的に確保できていること。	評価指標	①現代社会の求める新たなリテラシー（数理・データサイエンス、情報科学、批判的思考、デザイン思考等）、STEAM 教育、外国語教育、SDGs 教育などの教育内容の体系化（カリキュラムマップに位置付け） ②1 年次学生の英語外部試験の状況：2 回目の平均得点が 1 回目より 5 %以上上昇 [第 2 期期間中の平均]	1. 教育の質保証の徹底 ①- 1 学長・教務部・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会の責任所在の明確化と連携の深度化による運用の定着 ①- 2 3 ポリシー及び教育課程の妥当性に関する、授業評価、卒業時アンケート、卒業生・就職先アンケート、GPS-Academic（外部アセスメントテスト）のデータの統合による DP 達成度（指標群）の可視化及び、点検結果に基づく「改善計画→実施→効果検証→次年度反映」サイクルの運用強化 ①- 3 <u>学生の意見を教学マネジメントに取り入れる仕組み</u>（学生 FD、学生代表の参画、学生ヒアリング等による学生参画の制度化、及び教学マネジメント会議への定期報告体制）の運用開始 ②- 1 <u>大学設置基準に基づく教員数・教授数等</u>（全学及び各学部学科、大学院にあっては大学院設置基準に基づく研究指導教員数・研究指導補助教員数（各研究科専攻））の<u>管理の徹底と監視の高度化</u>（リアルタイム点検体制への移行） 2. 基盤教育の充実を核とする教育改革の展開 ①- 1 <u>各学科と教務部との連携強化</u>による、定期ミーティングの「情報共有」から「意思決定・改善管理」への機能転換 ①- 2 全学部共通基盤科目及びクォーター制導入による教育効果に関する、学修成果（成績分布、GPA 推移、学修時間、離脱率等）及び学生アンケートを用いたデータ検証並びに、検証結果に基づく科目設計（評価方法・授業回数・課題量等）の改善 ①- 3 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」認定プログラムの履修促進による修了率向上施策の実施 ①- 4 細分化された授業科目に関する教育内容見直し結果を踏まえた、チームティーチングの検討・試行及び効果検証
評価指標	①教育プログラム評価方法の構築・検証及び改善状況（教育プログラム評価方法を構築し、それに基づく検証を行い、改善計画を着実に実行するサイクルを確立） ②授業評価、卒業時アンケート及び卒業生・就職先アンケートの実施状況：学生満足度（上位の評価）を 80%以上 [第 2 期中毎年度] ③大学設置基準等に基づいた教員数・教授数を安定的に確保できていること。				
評価指標	①現代社会の求める新たなリテラシー（数理・データサイエンス、情報科学、批判的思考、デザイン思考等）、STEAM 教育、外国語教育、SDGs 教育などの教育内容の体系化（カリキュラムマップに位置付け） ②1 年次学生の英語外部試験の状況：2 回目の平均得点が 1 回目より 5 %以上上昇 [第 2 期期間中の平均]				

③「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル・応用基礎レベル）」の認定取得の活用により、全学的にデータサイエンスの素養を身に付けた人財が養成されていること。	①- 5 入学前教育及びリメディアル教育の企画・標準化・実施 （学科横断型入学前教育の標準化及び英語外部試験受験機会提供の制度化） ①- 6 サマーセッション・ウィンターセッションを活用した、通常授業、現場実習・インターンシップ、連携大学との共同教育、海外大学等への留学、ボランティア活動、キャリア経験等による集中的学修機会のメニュー化		
3. 時代に即した質の高い学士課程教育及び大学院教育の展開 ①新しい時代のニーズに対応した大学教育を実現するため、本学の強みを活かした学士課程教育及び大学院教育に注力する。 ②大学をめぐる環境を踏まえて、継続的に教育研究組織を点検・変革する。 <table border="1" data-bbox="145 880 807 1744"> <tr> <td data-bbox="145 880 285 1744">評価指標</td><td data-bbox="285 880 807 1744"> ①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：25%減、非常勤講師の削減：50%減 [第2期終了時] ※第1期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第2期期間中平均] ※第1期期間中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第2期の平均入学者数が第1期より増加 ※24年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼任率の向上：70%以上 [第2期終了時] ※第1期実績 大学院担当教員率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第2期期間中平均] </td></tr> </table>	評価指標	①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：25%減、非常勤講師の削減：50%減 [第2期終了時] ※第1期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第2期期間中平均] ※第1期期間中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第2期の平均入学者数が第1期より増加 ※24年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼任率の向上：70%以上 [第2期終了時] ※第1期実績 大学院担当教員率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第2期期間中平均]	3. 時代に即した質の高い学士課程教育及び大学院教育の展開 ①- 1 <u>2026 年度カリキュラム改革の運用状況に関する点検及び改善点の抽出、並びに 2027 年度以降の方針策定</u> ①- 2 国家試験合格率の高位安定化に向けた施策及び支援体制の強化・高度化 ①- 3 大学院先行履修制度の制度設計（対象・上限・成績要件・学費・修了要件）の確定及び一部研究科での試行 ①- 4 社会人のリカレント教育の充実に向けたニーズ調査に基づく教育プログラムの企画及び就学環境（短期履修・夜間/週末・オンライン・奨学制度等）の整備 ②- 1 経済社会環境に対応した教育研究組織（在学生支援計画等を前提とする学部学科等の再編・キャンパス機能の再構築と定員の再配置、不採算分野の存廃、未来価値の創出等）の点検・見直し ②- 2 総合大学の強みを活かし、共同指導、科目相互履修、学内共同研究の制度整備による大学院教育の魅力と研究力の強化
評価指標	①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：25%減、非常勤講師の削減：50%減 [第2期終了時] ※第1期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第2期期間中平均] ※第1期期間中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第2期の平均入学者数が第1期より増加 ※24年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼任率の向上：70%以上 [第2期終了時] ※第1期実績 大学院担当教員率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第2期期間中平均]		
4. より質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境の整備 ①学生の自律的な学修の深化を目指して教育DXを推進し、学生の学ぶ意欲を刺激する授業運営を充実し、学修者の能動的な学修環境を整備する。	4. より質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境の整備 ①- 1 教務部と情報推進課の連携に関する運用ルールの整備 ①- 2 学務情報システムを活用した CAP、課程資格、進級、卒業等に関する<u>リアルタイムチェックの運用方法の整備とその効果検証</u>		

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 208 295 846">評価指標</td><td data-bbox="295 208 820 846"> ①アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の60%以上で実施〔第2期終了時〕 ②学内外協働教育の実施状況：PBL型授業・プログラムの増加〔第2期終了時〕 ③高度な教育DXにより学修効果を高めようとする授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む）：各学部・学科2科目以上〔第2期終了時〕 ④ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者18,000人以上〔第2期終了時〕 ※23年度実績：年間16,308人(東紀含) </td></tr> </table>	評価指標	①アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の60%以上で実施〔第2期終了時〕 ②学内外協働教育の実施状況：PBL型授業・プログラムの増加〔第2期終了時〕 ③高度な教育DXにより学修効果を高めようとする授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む）：各学部・学科2科目以上〔第2期終了時〕 ④ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者18,000人以上〔第2期終了時〕 ※23年度実績：年間16,308人(東紀含)	①-3 アクティブラーニング等の好事例（授業運営・教材工夫等）の収集・共有の体系化及び、FD研修、授業設計テンプレート、教材共有リポジトリとしての学内展開 ①-4 e-スポーツ特化型施設及びデバイスを活用した授業の開設及び運用評価 ①-5 企業・実務家教員等との双方向コミットメントの契約・運用ルール化、並びにPBL（Project Based Learning）設計品質（学修目標、評価、成果物）の標準化及び拡充 ①-6 JIU学会活動の参加促進、及び研究・教育への波及（共同研究、紀要、発表）の可視化と学内外発信の強化 ①-7 図書館・ラーニングコモンズを活用した学修支援の段階的実施、及びTA・SA配置による能動的学修支援の充実
評価指標	①アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の60%以上で実施〔第2期終了時〕 ②学内外協働教育の実施状況：PBL型授業・プログラムの増加〔第2期終了時〕 ③高度な教育DXにより学修効果を高めようとする授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む）：各学部・学科2科目以上〔第2期終了時〕 ④ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者18,000人以上〔第2期終了時〕 ※23年度実績：年間16,308人(東紀含)		
II. 「学生支援力、就職・進学支援力」の強化			
5. 修学支援の充実 ①充実した学生生活の実現を図るとともに、「建学の精神」や「教育の理念」の発信者として活躍し得る人財を育成するため、学生への経済的支援制度を再構築し、総合的な学生支援体制を強化する。 ②学生が安心して健康なキャンパスライフを送ることができる体制を強化するため、ハラスメント対策の徹底、メンタルケアの充実、さらに学生の多様性に配慮した学修環境の整備を推進する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1328 295 1715">評価指標</td><td data-bbox="295 1328 820 1715"> ①本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第2期最終年度までに拡充 ②アドバイザー制度に対する学生の満足度：第1期に比して大幅に向上 ③障害学生が学びやすい環境の整備：第1期に比して大幅に向上 ④学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上〔第2期終了時〕 </td></tr> </table> 6. 正課外活動の準正課教育への転換 ①新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、正課教育を補完するものとしていた正課外活動の意義を積極的に捉え直し、大学が関与する準正課活動を準正課教育（大学が所掌する正式プログラムとして位置付け）として強化する。	評価指標	①本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第2期最終年度までに拡充 ②アドバイザー制度に対する学生の満足度：第1期に比して大幅に向上 ③障害学生が学びやすい環境の整備：第1期に比して大幅に向上 ④学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上〔第2期終了時〕	5. 修学支援の充実 ①-1 教務部、学生サービス課との連携による、支援が必要な学生の早期把握及び最短導線での支援接続の全学標準化 ①-2 奨学生制度・学納金減免制度の「減免」から「成果・困窮・成長支援の奨学」への再設計及び経済的支援制度の周知徹底 ①-3 アドバイザー制度の「面談」から「学修・生活・進路の伴走」への観点による検証・強化（標準面談〔共通質問＋記録＋次アクション〕の整備） ②-1 学生の抱える様々な悩みや何らかの障害や疾患に対して、気軽に相談できる場（学生サポートセンター）及びAT（支援機器）ライブラリーの拡充 ②-2 発達障害や身体障害などの障害を持つ学生に対する全学的支援（ノートテイク学生・ピアサポート学生の養成、障害学生の就職支援拡充、アクセシビリティ・マップの作成・備え付け等）の段階的拡充 6. 正課外活動の準正課教育への転換 ①-1 スポーツ推進機構のリーダーシップによる正課外活動の教育的価値の整理及び実装（大学スポーツに参加することで身に付けてほしい能力（コンピテンシー）の整理、正課外活動の教育効果の体系的な検証の試み）
評価指標	①本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第2期最終年度までに拡充 ②アドバイザー制度に対する学生の満足度：第1期に比して大幅に向上 ③障害学生が学びやすい環境の整備：第1期に比して大幅に向上 ④学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上〔第2期終了時〕		

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 210 296 443">評価指標</td><td data-bbox="296 210 807 443"> ① 正課外活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ② 学業とスポーツ活動が両立しているか検証可能な体制の整備 </td></tr> </table>	評価指標	① 正課外活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ② 学業とスポーツ活動が両立しているか検証可能な体制の整備	①-2 ユニバーシティ・アイデンティティの醸成及び大学一体感の形成に資する正課外活動の育成・支援、並びに JIU スポーツを強くするプロジェクト（「Road to SENDAI&FUJI 2026」「Road to JUFA KANTO 2026」「Road to MEIJI JINGU 2026」）の「競技成果＋学生参画（学生スタッフ）」の両輪による再設計及び教育接続の実装 ①-3 スポーツ・コンプライアンス教育（新入部員、幹部、指導者等別）の年間カリキュラム化による計画実施の定着
評価指標	① 正課外活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ② 学業とスポーツ活動が両立しているか検証可能な体制の整備		
7. 退学・休学の防止対策の徹底 ① 離学者の抑制に重要な問題（学生が大学に満足していない、学生自身のキャリアへ与える問題、大学のイメージ低下、大学の経営圧迫など）が内在していることを踏まえ、離学（退学・休学・留年）の真因を定期的に把握・分析し、その低減対策を着実に実行する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 936 296 1370">評価指標</td><td data-bbox="296 936 807 1370"> ① 学生の中途退学者の割合：2.04%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：2.65% ② 学生の休学者の割合：2.69%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：1.78% ③ 学生の留年者の割合：18.4%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：3.05% </td></tr> </table>	評価指標	① 学生の中途退学者の割合：2.04%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：2.65% ② 学生の休学者の割合：2.69%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：1.78% ③ 学生の留年者の割合：18.4%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：3.05%	7. 退学・休学の防止対策の徹底 ①-1 教務部及び学生サービス課と各学科との連携強化、並びに介入の優先順位ルール（GPA×欠席×学納金×相談歴）の共有・運用開始 ①-2 <u>離学（退学・休学・留年）の真因（本人要因（健康、経済、学力、メンタル、家庭等）と大学要因（授業、支援不足、ミスマッチ等））の把握・分析の高度化</u> ①-3 <u>離学理由分析結果に基づく取組（個別面談、学修サポートデスク、オフィスアワー、奨学金・授業料減免活用、授業改善、設備改善等）の実装及び運用定着</u> ①-4 面談による退学率改善効果の分析結果に基づく取組（アドバイザーの意識変革とスキル向上、Doリスト作成等）の実装及び運用定着
評価指標	① 学生の中途退学者の割合：2.04%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：2.65% ② 学生の休学者の割合：2.69%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：1.78% ③ 学生の留年者の割合：18.4%以下 [第2期終了時] ※2023年度実績：3.05%		
8. 就職・進学支援及びキャリア教育の充実 ① 学生一人ひとりの希望・能力・個性に応じた就職・進学支援を行うため、就職・進学支援体制を抜本的に見直し、キャリア形成プログラム（入口）、社会経済情勢に適合した就職支援（出口）、さらに大学院進学に関する多面的支援（出口）を展開・充実する。	8. 就職・進学支援及びキャリア教育の充実 ①-1 <u>各学科とキャリア形成・就職センター連携の「情報共有」から「共同設計（共同 KPI）」への高度化及び学科別業界戦略（重点業界・企業群）の策定</u> ①-2 キャリア教育支援プログラム（企業との信頼関係による就職支援の強化、企業と学生・保護者との交流及び情報交換の場の設定、企業訪問とアライアンスの開拓、キャリアカウンセリング、学生のための各種講座の実施、GPS-Academicを活用した就職支援、卒業生に対する支援、就職後の満足度調査等）の企画・整備及び運用定着 ①-3 <u>長期・短期のインターンシップへの参加拡大を支える環境（学事暦・授業設計との整合、参加前教育＋参加後の振り返り等）の整備</u>		

評価指標	①大学等が実施したキャリア形成支援活動への参加学生数：1,300 人 [第 2 期終了時] ※23 年度実績：1,237 人 ②就職希望の学生が就職する割合：98% [第 2 期終了時] ※23 年度実績：97.6% ③卒業生の活躍の状況：雇用主からの肯定的評価の割合の向上 ④学部学生の大学院（修士課程）への進学率：2% [第 2 期終了時] ※23 年度実績：0.7% ⑤修士課程修了者の博士課程への進学率：5% [第 2 期終了時]	①-4 学生の希望に応じた U ターン、I ターン、J ターン就職支援（自治体・地元企業協定、オンライン合同説明会、交通費補助可能性、地域別求人見える化等）の拡充 ①-5 <u>外国人留学生の求人開拓</u>（前向き企業データベース化、業界別開拓、<u>海外企業とのネットワーク</u>等）の強化 ①-6 大学院進学率向上プロジェクトの立上げ及び早期研究体験・進学情報提供の運用開始
-------------	--	--

III. 「ブランド力・学生募集力」の強化

9. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①中期的に安定して入学者数/入学定員と在籍学生数/収容定員を 1.00 とするために、これまでの取組を刷新し、今実施すべき学生募集戦略を策定の上、本学独自の特色を打ち出した学生募集活動を徹底する。	9. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①-1 <u>入試部、広報室と各学科の連携強化、及び学部及び大学院の入学者選抜総括と国内外における戦略的學生募集・高大移行支援を担う「アドミッション機構」を設置・整備</u> ①-2 今実施すべき学生募集戦略（真の訴求点となる学生のニーズ、競合校との差別化、大学ブランディング、学生募集の DX 化、短時間で魅力が伝わるコンテンツ作り、自校の強みを活かせる分野へのリソース投下、教職員にもブランドイメージを浸透、重点高校・教諭へのアプローチ強化、JU との共同作戦、就職実績の強化とアピール、グローバルの魅力向上、スポーツ教育プログラムの強化、学生が考える本学へのイメージと現実のギャップの解消、コースの再編など）の策定と実行 ①-3 <u>オープンキャンパス・留学者フェアの出願・入学に直結する導線化</u>（開催・参加実績や受験実績をもとにした開催日の再設計、目的別の導線複線化、教職協働運営標準の整備、開催 72 時間内フォロー徹底）の実装及び運用定着 ①-4 教育提携校の点検・見直し・開拓・重点化 ①-5 情報分析に基づく学生募集誘導のデジタル・マーケティング手法の導入・実装 ①-6 JIU の特徴を活かした入試募集要項の作成及び多言語化の実装
--	---

10. アドミッション・ポリシーと受験者ニーズに基づいた入試への改善 ①アドミッション・ポリシーに定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力と資質との関係を検証し、入学者選抜の不断の見直しを行う。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td> ❶入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部・教育目標に沿った入試の見直しの実施 ❷収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第2期終了時] ※2023年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6学科） </td> </tr> </table> 11. JIU の総合価値の向上及び情報発信 ①日々大学を巡る社会経済環境が変化する中、大学の持続的成長を目的とした「大学価値の向上」を図るため、「建学の精神」と「教育の理念」を更に具現化し、多様な情報発信機能を活用して情報発信力を戦略的・効果的に強化する。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td> ❶Instagram のフォロワー数：第1期終了時に比して 300%増 [第2期終了時] ※23年度実績：974 件 ❷HP 閲覧数：24 年度比で 30%増 [第2期終了時] ※24 年度実績：733,020 件 ❸シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第1期の実績以上 [第2期終了時] ※23 年度実績：1 件 総参加者 103 人 </td> </tr> </table>	評価指標	❶入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部・教育目標に沿った入試の見直しの実施 ❷収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第2期終了時] ※2023年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6学科）	評価指標	❶Instagram のフォロワー数：第1期終了時に比して 300%増 [第2期終了時] ※23年度実績：974 件 ❷HP 閲覧数：24 年度比で 30%増 [第2期終了時] ※24 年度実績：733,020 件 ❸シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第1期の実績以上 [第2期終了時] ※23 年度実績：1 件 総参加者 103 人	10. アドミッション・ポリシーと受験者ニーズに基づいた入試への改善 ①-1 <u>入試部と各学科の連携強化</u>（9-①-1 と統合運営）及び入試設計の意思決定まで踏み込む運用の定着 ①-2 志願動向、入学後修学状況、卒業進路等のデータベース化の推進及び運用定着 ①-3 年内入試動向を踏まえた、<u>各選抜方式</u>（総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜）の総合的分析を踏まえた構成バランスの最適化と<u>入試ポートフォリオの再構築</u>を基盤とした、<u>選抜資料の多元化、評価方法の高度化、入学者像の再定義及び受験アクセシビリティの改善による「選ばれる大学」実現のための入試戦略の実装</u> ①-4 能力・意欲・適性等（外国人留学生にあっては日本語力を含む。）を多面的・総合的に評価する入学者選抜（高大接続入試検討を含む。）の仕組みの検討・整備 ①-5 <u>入学定員充足率が 8 割以下等の学部・学科の抜本的改革</u>（届出による定員削減や学部廃止等を含む。）の検討・実行 11. JIU の総合価値の向上及び情報発信 ①-1 <u>研究・社会貢献部、広報室と各学科との連携強化</u> ①-2 建学の精神・教育の理念の分かりやすい可視化及び学修施策の企画・整備 ①-3 支持者層や年齢層別の多様なメディアによる大学の特色・活動の積極配信及び双方向対話機会の設定（高校生・保護者・高校教員で媒体差がある前提設計） ①-4 「国際」を冠する大学としてのプレゼンス向上に向けた取組（多言語による情報発信の強化、国際大学間の未来ネットワークの活動等）の実践
評価指標	❶入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部・教育目標に沿った入試の見直しの実施 ❷収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第2期終了時] ※2023年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6学科）				
評価指標	❶Instagram のフォロワー数：第1期終了時に比して 300%増 [第2期終了時] ※23年度実績：974 件 ❷HP 閲覧数：24 年度比で 30%増 [第2期終了時] ※24 年度実績：733,020 件 ❸シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第1期の実績以上 [第2期終了時] ※23 年度実績：1 件 総参加者 103 人				
IV. 「国際力」の強化					
12. 国際社会への貢献に向けた基盤強化	12. 国際社会への貢献に向けた基盤強化 ①-1 <u>国際連携推進機構と各学科・研究科の「機構主導」から「部局実装」への転換</u>（部局別国際リエゾン（担当教員＋				

①学術研究の高度化と多様な教育機会を創出するため、海外の大学・研究機関と組織的に連携・協力し、包括的国際化推進体制の強化を推進する。

評価指標	①国際ネットワークの強化 ：第1期に比して格段に向上 ②外国人留学生からの納付金等の帰属収入（減免措置の廃止を含む）の増加 ③世界大学ランキングの向上 ④学内におけるグローバル関連プログラムの教育・研究プログラムの参加者数 ：年間 800 人
-------------	--

13. 外国人留学生の戦略的受入れと就学環境の整備

①優秀な外国人留学生の戦略的な獲得を目指し、現在の就学環境の点検・整備を行った上で社会経済情勢に適合した外国人留学生受入れ戦略（重点的地域や分野・新規教育プログラム等含む）を策定し、組織的なリクルーティング活動を展開する。

評価指標	①第2期中に通年で外国人留学者受入れ数 ：1,500 人 ※23 年度実績（548 名） ②外国語で開講する科目数の拡充 ：70 科目以上 ③外国人留学生の卒業・修了後の本国における外国人留学生同窓会の会員数 ：1,000 人以上
-------------	---

事務）の指名、国際案件の受付・審査・意思決定及び情報統合の標準フローの整備、部局 KPI の設定等）の整備及び運用定着

- ①-2 グローバル化の包括的ビジョンの策定及び世界展開の優先軸（例：地域×学術領域×教育形態×収益/社会貢献）の明確化
- ①-3 協定数重視から稼働重視への移行による海外協定校の点検・見直し及び「活動合意→協定」の順の新規開拓
- ①-4 登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関の登録
- ①-5 オールイングリッシュ科目の拡充
- ①-6 教育研究の質向上・国際発信強化の副産物としての世界大学ランキングの向上に向けた重点的取組（国際性分野 30 位以内、教育充実度分野 200 位以内）の実装

13. 外国人留学生の戦略的受入れと就学環境の整備

- ①-1 入試部、国際連携推進機構と各学科・研究科との連携強化、及び「留学生募集～入学～修学～進路」を一本化した「留学生パイプライン会議」等の設置・整備及び運用開始
- ①-2 外国人留学生受入れ戦略（学部入学／短期・交換／編入学・院進学）による3セグメント整理、国別ではなく「教育プログラム適合×就職/進学導線×収支」での優先順位付け、奨学金・授業料引上げ又は減免・TA/RA など支援を条件付きパッケージ化等）の策定
- ①-3 英語で行う科目数の拡充、及び国際標準化された英語で教育する新たなコースの検討・準備等による留学生教育プログラムの整備
- ①-4 教学 IR（入試方式別の GPA/修了率/離籍率/日本語力伸長/就職」等）を分析）の活用による入学者選抜方法の改善・実装、及び渡日前入試・外部試験活用・海外協定校入試・国内日本語学校外国人留学生推薦強化の拡充
- ①-5 外国人留学生受入れの活性化を目指した基盤（渡日前学修、全学的サポート体制等）の整備及び日本語教育体制（日本語 e-ラーニングコンテンツ、日本語短期研修プログラム等）の拡充及び成果の可視化
- ①-6 外国人留学生の課外活動や学修支援活動参加促進（バディ制度のアップグレード等）の実装及び定着

14. 本学学生の海外留学と国際体験の促進 ①国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材を育成するため、協定校交換留学プログラム・短期海外研修プログラム等を実施し、また、海外留学・インターンシップを促進して、グローバルな修学環境を醸成する。 <table border="1" data-bbox="159 465 805 607"> <tr> <td>評価指標</td> <td> ① 第2期中に通年で海外留学体験学生数：1,000人 ② 国際共修型授業の実践率：全学部生の30% </td> </tr> </table>	評価指標	① 第2期中に通年で海外留学体験学生数：1,000人 ② 国際共修型授業の実践率：全学部生の30%	14. 本学学生の海外留学と国際体験の促進 ①-1 <u>国際連携推進機構と各学科・研究科との連携強化</u> ①-2 海外留学促進の語学教育（正課内外）及び英語で学ぶ教育コース（コース設置のインセンティブを含む。）の拡充 ①-3 海外の大学とのオンラインによる国際共修型授業（COIL：Collaborative Online International Learning）の開発等による、留学せずに国際体験できるボーダレスキャンパス環境の整備 ①-4 JASSO等のプログラムへの応募推奨、及び計画策定から採択までを伴走支援による多様な海外留学機会と経済的支援の実装 ①-5 国際的に通用する自己表現力の向上を図るため、国際学術シンポジウム等への学生参加を促進
評価指標	① 第2期中に通年で海外留学体験学生数：1,000人 ② 国際共修型授業の実践率：全学部生の30%		
V. 「研究力」の強化			
15. 研究成果の創出と発信 ①各分野の学会をリードし、社会の諸課題を解決する研究成果の創出を目指し、総合大学としての多様な研究力を引き出す研究環境・学際的協力関係を整備し、独創研究へのチャレンジを促進する。 <table border="1" data-bbox="159 1182 805 1473"> <tr> <td>評価指標</td> <td> ① “researchmap”の登録率：95%以上 ※2024年度実績（88.3%） ② 査読論文・学会発表の件数：第1期実績に比して50%増 ③ 研究情報の一元化及び体系的な成果発信：年間5件以上 </td> </tr> </table> 16. 研究資金力の強化 ①研究の質の維持・向上を図るため、基盤的研究費を確保しつつ、外部資金獲得に向けた支援体制を整備し、研究サポート経費（配分最適化・拡充等を含む）の捻出法について検討する。	評価指標	① “researchmap”の登録率：95%以上 ※2024年度実績（88.3%） ② 査読論文・学会発表の件数：第1期実績に比して50%増 ③ 研究情報の一元化及び体系的な成果発信：年間5件以上	15. 研究成果の創出と発信 ①-1 <u>研究・社会貢献部と各学科・研究科との連携の制度化</u>（研究連絡担当教員指定、研究スナップショット作成・共有、学科別伴走支援メニュー（申請支援／広報支援／産学連携等）提示等）による連携強化の定着 ①-2 教育研究活動データベースの機能拡張（科学技術振興協会が運営する「researchmap」の登録・更新促進を含む。）及び「使われるデータベース」化の仕掛けの整備 ①-3 教員のh-indexの公表及び適切活用の運用定着 ①-4 研究IRを活用した、本学の強みや独創研究へのチャレンジを促進する重点領域の設定と研究費（学長所管研究費の募集・配分を含む。）・研究スペース・戦略的な論文投稿支援等の全学的支援の継続的実施 ①-5 学長主催ポスターセッションの「発表の場」から「つながる場」へ発展による運用定着 ①-6 時代のニーズに合わせた情報発信体制の定着及び研究成果の国内外発信の強化 16. 研究資金力の強化 ①-1 <u>研究・社会貢献部と各学科・研究科との連携強化</u> ①-2 外部資金の申請を獲得に結び付ける申請ステージ別支援体制の明確化及び整備
評価指標	① “researchmap”の登録率：95%以上 ※2024年度実績（88.3%） ② 査読論文・学会発表の件数：第1期実績に比して50%増 ③ 研究情報の一元化及び体系的な成果発信：年間5件以上		

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 210 288 416">評価指標</td><td data-bbox="288 210 807 416"> ① 科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※24 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ② 科研費の受入れ件数：24 年度比で 20%増 </td></tr> </table>	評価指標	① 科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※24 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ② 科研費の受入れ件数：24 年度比で 20%増	①-3 クラウドファンディングの啓発と活用（年 1～2 件のモデル案件を大学主導で創出）の実装及び定着
評価指標	① 科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※24 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ② 科研費の受入れ件数：24 年度比で 20%増		
VI. 「地域連携・社会貢献力」の強化			
17. 地域創生機能の強化・教育カリキュラムの展開 ① 地域資源に新たな価値を創成して地域活性化を図るため、地域ニーズの集積・分析を踏まえて地域連携推進センターの企画機能を充実し、地域を教育研究ラボと見立てた教育プログラム等を展開する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 770 288 1256">評価指標</td><td data-bbox="288 770 807 1256"> ① 地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中期計画期間中の実績に比して 30%増 ② 公開講座の開催件数：年間 20 件 ※23 年度実績：15 回、254 名 ③ リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20%増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④ 地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上 </td></tr> </table>	評価指標	① 地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中期計画期間中の実績に比して 30%増 ② 公開講座の開催件数：年間 20 件 ※23 年度実績：15 回、254 名 ③ リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20%増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④ 地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上	17. 地域創生機能の強化・教育カリキュラムの展開 ①-1 <u>地域連携推進センターと各学科・研究科の「連携の個別対応」から「常設の共同運営」への転換による体制整備及び運用定着</u> ①-2 研究機能を活かした連携（域学共創プロジェクト、受託・共同研究、審議会等への参画・提言、医療・保健・福祉機関・施設との共創等）の推進、及びプロジェクトの提案型への転換による外部資金・政策接続の強化 ①-3 教育機能を活かした連携（公開講座・市民未来大学の学修導線設計、リカレント教育プログラムのパッケージ商品化、地域フィールド実習型学習等）の継続実装及び定着 ①-4 施設・学生・その他を通じた連携（大学施設の開放・共同拠点化、学生の提案・運営、ボランティア活動、観光・外国人対応での協力、防災・減災活動等）の継続実装及び定着
評価指標	① 地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中期計画期間中の実績に比して 30%増 ② 公開講座の開催件数：年間 20 件 ※23 年度実績：15 回、254 名 ③ リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20%増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④ 地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上		
18. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決等への寄与 ① イノベーションの創出と社会課題の解決のため、産学官金「連」協働室の連結機能を基軸とする多様な産学官金連携の枠組みや各機関との連携協定等を活用した社会の課題解決に向けた共創協力やユニバーシティ・エンゲージメントを強化する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1603 288 1890">評価指標</td><td data-bbox="288 1603 807 1890"> ① 産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行：10 件〔第 2 期終了時〕 ② 受託研究数・共同研究数・寄附講座数：第 1 期中の実績以上 ③ 産学官金連携・共創参画教員数：延べ 100 人以上〔第 2 期終了時〕 </td></tr> </table>	評価指標	① 産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行：10 件〔第 2 期終了時〕 ② 受託研究数・共同研究数・寄附講座数：第 1 期中の実績以上 ③ 産学官金連携・共創参画教員数：延べ 100 人以上〔第 2 期終了時〕	18. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決等への寄与 ①-1 <u>産学官金「連」協働室及び研究・社会貢献部と各学科・研究科との連携強化</u> ①-2 産学官金「連」協働室による社会ニーズの案件化と連携・共創の働き掛けによる新規の連携・共創事業の創出（1 件以上）
評価指標	① 産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行：10 件〔第 2 期終了時〕 ② 受託研究数・共同研究数・寄附講座数：第 1 期中の実績以上 ③ 産学官金連携・共創参画教員数：延べ 100 人以上〔第 2 期終了時〕		

19. 教育研究成果の地域還元 ①社会に開かれた大学としての責務を果たすために、本学の教育研究の成果を多様な形で社会に還元し、学内外施設等を活用して教育研究成果を発信し、さらに本学のノウハウ等を活用した多面的な活動を展開する。 <table border="1" data-bbox="159 465 805 801"> <tr> <td data-bbox="159 465 295 801">評価指標</td> <td data-bbox="295 465 805 801"> ❶学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数：年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ❷公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ❸公開講座・市民未来大学の受講者の満足度：75%以上 [第 2 期終了時] </td> </tr> </table>	評価指標	❶学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数：年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ❷公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ❸公開講座・市民未来大学の受講者の満足度：75%以上 [第 2 期終了時]	19. 教育研究成果の地域還元 ①- 1 <u>研究・社会貢献部と各学科・研究科との連携強化</u> ①- 2 大学の施設と学術資源を活用した文化事業の継続推進（鑑賞型から参加・共創型への重点移行を含む。）の実装及び定着 ①- 3 多様な学びのニーズを捉えた公開講座・市民未来大学の企画・実施（講座提供から学びの伴走〔学習成果〕への重点移行を含む。）の実装及び定着		
評価指標	❶学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数：年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ❷公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ❸公開講座・市民未来大学の受講者の満足度：75%以上 [第 2 期終了時]				
VII. 「IT・DX 推進力」の強化					
20. IT 推進力の強化 ①様々な業務作業に伴う現場担当者の負担軽減を図るため、デジタル技術を活用して業務の最適化・効率化を推進する。 <table border="1" data-bbox="159 1059 805 1350"> <tr> <td data-bbox="159 1059 295 1350">評価指標</td> <td data-bbox="295 1059 805 1350"> ❶情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ❷業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ❸電子決裁普及率、電子文書保存率：それぞれ 50%、80% </td> </tr> </table> ②情報セキュリティの向上のため情報基盤システムを維持・強化し、運用管理体制を整備・強化する。 <table border="1" data-bbox="159 1525 805 1910"> <tr> <td data-bbox="159 1525 295 1910">評価指標</td> <td data-bbox="295 1525 805 1910"> ❶セキュリティインシデントの未然防止及び発生時の迅速な対応が可能な体制整備の実現 ❷脆弱性指標における高リスク項目を全体の 20% 以内に抑制 ❸主要な情報システムのチェック実施：毎年度 1 回以上 ❹情報セキュリティ注意喚起：毎年度 12 回以上 ❺情報セキュリティ研修の実施：毎年度 1 回以上 </td> </tr> </table>	評価指標	❶情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ❷業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ❸電子決裁普及率、電子文書保存率：それぞれ 50%、80%	評価指標	❶セキュリティインシデントの未然防止及び発生時の迅速な対応が可能な体制整備の実現 ❷脆弱性指標における高リスク項目を全体の 20% 以内に抑制 ❸主要な情報システムのチェック実施：毎年度 1 回以上 ❹情報セキュリティ注意喚起：毎年度 12 回以上 ❺情報セキュリティ研修の実施：毎年度 1 回以上	20. IT 推進力の強化 ①- 1 <u>2 大学と法人との連携テーマの明確化及び共同実行体制の定着・協働</u> ①- 2 情報に関する知見や活用技術を備えた職員育成方針の明確化及び段階的育成の開始 ①- 3 業務全体を俯瞰したデジタル化計画の策定と重点業務の試行 ①- 4 業務フロー再設計及び限定的な電子決裁導入の実装開始 ②- 1 情報資産の可視化及びリスクに応じた対策運用の定着
評価指標	❶情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ❷業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ❸電子決裁普及率、電子文書保存率：それぞれ 50%、80%				
評価指標	❶セキュリティインシデントの未然防止及び発生時の迅速な対応が可能な体制整備の実現 ❷脆弱性指標における高リスク項目を全体の 20% 以内に抑制 ❸主要な情報システムのチェック実施：毎年度 1 回以上 ❹情報セキュリティ注意喚起：毎年度 12 回以上 ❺情報セキュリティ研修の実施：毎年度 1 回以上				

21. DX 推進力の強化 ①最高水準の教育の学生への提供、研究の効率化・高度化、大学運営の効率化、社会連携の強化、学生サービスの向上などを旨として、大学 DX（デジタルトランスフォーメーション）における各領域（教育 DX、研究 DX、運営・業務 DX）のデジタル技術を導入し、変革を推進する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="161 517 284 1048">評価指標</td> <td data-bbox="300 517 799 1048"> ①実施計画の進捗状況（実施体制の構築、実施計画の策定及び実施計画に基づく取組の達成状況）：毎年度状況を確認 ②電子申請化及び RPA 等の自動化・電子化業務数：20 件以上 ③学生相談窓口業務のオンライン化推進状況：オンライン窓口を 10 か所以上開設 ④事務効率改善等による教職員の満足度：ES 値の向上 ⑤インターネットを活用した遠隔教育環境に係る学生の満足度：ES 値の向上 </td> </tr> </table>	評価指標	①実施計画の進捗状況（実施体制の構築、実施計画の策定及び実施計画に基づく取組の達成状況）：毎年度状況を確認 ②電子申請化及び RPA 等の自動化・電子化業務数：20 件以上 ③学生相談窓口業務のオンライン化推進状況：オンライン窓口を 10 か所以上開設 ④事務効率改善等による教職員の満足度：ES 値の向上 ⑤インターネットを活用した遠隔教育環境に係る学生の満足度：ES 値の向上	21. DX 推進力の強化 ①- 1 <u>2 大学と法人との連携及び共同実行フェーズへの移行</u> ①- 2 教育研究及び事務の DX（デジタルトランスフォーメーション）を行うための推進体制の実働化及びロードマップ策定 ①- 3 AI 契約書確認サービスの限定導入による実務適合性と業務定着の検証 ①- 4 デジタル学生証とそれに対応した学生サービス連携対象拡大の検討・整備
評価指標	①実施計画の進捗状況（実施体制の構築、実施計画の策定及び実施計画に基づく取組の達成状況）：毎年度状況を確認 ②電子申請化及び RPA 等の自動化・電子化業務数：20 件以上 ③学生相談窓口業務のオンライン化推進状況：オンライン窓口を 10 か所以上開設 ④事務効率改善等による教職員の満足度：ES 値の向上 ⑤インターネットを活用した遠隔教育環境に係る学生の満足度：ES 値の向上		
VIII. 「組織・運営力」の強化			
22. 教学ガバナンス・マネジメントの実質化・最適化の推進 ①大学の目的である教育、研究及び社会貢献の機能を最大化し、「攻めのガバナンス」と「守りのガバナンス」を機能させるため、学校教育法・私立学校法・私立大学ガバナンスコード等と連動して教学ガバナンスを強化する。 ②大学がその教育目的を達成するため、教学 IR 機能を強化・活用し、教学マネジメントを全学的に展開する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="161 1491 284 2020">評価指標</td> <td data-bbox="300 1491 799 2020"> ①中期計画期間の最終年度において外部理事及び評議員会から第 1 期中期計画期間と比して教学ガバナンス・マネジメントの実質化・効率化が進んだとの評価 ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる場の数（年 4 回以上実施） ③大学運営人財の計画的育成の状況（若手教員の学長特任補佐等への登用人数（第 1 期中期計画期間の平均以上）、学長特任補佐等からの提案数（中期計画期間中の累計で 40 件以上） </td> </tr> </table>	評価指標	①中期計画期間の最終年度において外部理事及び評議員会から第 1 期中期計画期間と比して教学ガバナンス・マネジメントの実質化・効率化が進んだとの評価 ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる場の数（年 4 回以上実施） ③大学運営人財の計画的育成の状況（若手教員の学長特任補佐等への登用人数（第 1 期中期計画期間の平均以上）、学長特任補佐等からの提案数（中期計画期間中の累計で 40 件以上）	22. 教学ガバナンス・マネジメントの実質化・最適化の推進 ①- 1 <u>学長等のリーダーシップと学部長等との懇談推進</u> ①- 2 教学ガバナンスにおける明確な役割分担及び実効性ある形への最適化 ①- 3 大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透に向けた取組の強化 ①- 4 内部統制システムの継続的改善に基づく適正かつ実効性ある体制の構築・定着 ②- 1 教学 IR 機能の継続的強化・拡充 ②- 2 教学 IR に基づく課題の洗い出し及び必要な改善計画の策定 ②- 3 教学 IR に基づく意思決定・資源配分・教育研究体制見直しへの実装
評価指標	①中期計画期間の最終年度において外部理事及び評議員会から第 1 期中期計画期間と比して教学ガバナンス・マネジメントの実質化・効率化が進んだとの評価 ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる場の数（年 4 回以上実施） ③大学運営人財の計画的育成の状況（若手教員の学長特任補佐等への登用人数（第 1 期中期計画期間の平均以上）、学長特任補佐等からの提案数（中期計画期間中の累計で 40 件以上）		

	④内部統制システムのモニタリングの実施状況と是正・改善状況（モニタリングのうち、独立的評価を一回以上実施し、課題について適切に対応） ⑤監事意見を受けた改善等への反映状況（100%の対応実施） ⑥全学・学部・研究科の3ポリシーの点検及び改善に基づく大学運営の実践 ⑦3ポリシーに沿ったカリキュラムの再編成・科目体系等の整備	
23. 全学的リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底 ①本学で想定されるリスク（業務リスク、情報セキュリティリスク、コンプライアンスリスク、イベントリスク）の回避・低減及び危機への迅速かつ確な対処により、大学構成員の安全確保を図るとともに、社会的な責任を果たすため、構成員一人ひとりがリスクマネージャーとしての自覚を持ち、様々なリスクに対応できる実践的なリスクマネジメント体制を確立する。		
評価指標	①危機管理計画の策定・徹底 ②シミュレーションに基づく実践的防災・減災訓練の実施	
②本学の社会的信頼性と業務遂行の公正性の維持に資することを目的に、社会的・公共的存在としての個人及び組織のコンプライアンスの高度化を推進する。		
評価指標	①コンプライアンス教育（研究費管理、研究不正、個人情報保護等）の受講率：100% ②全規程の計画的点検・見直しによる体系化	
24. 自己点検・評価の実質化と認証評価への適切な対応 ①第3期認証評価指摘事項等に対応し、また、第4期認証評価への準備を行う。 ②評価結果を活用したエビデンスベースの大学運営を実現するため、客観的データを収集・分析し、これを自己点検・評価のPDCAサイクルに活用し、改善策を見出し実施する。		
23. 全学的リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底 ①-1 本学で想定されるリスクに基づく全学的リスクマネジメントシステム（内部統制システムの整備及び内部監査体制の充実を含む。）の継続整備及び定着 ①-2 <u>高い発生確率で予測されている千葉県東方沖地震対策</u>（行政連携、総合的な学内システムの点検・見直し、自助・共助の取組の強化、防災連携・緊急救助体制の充実、災害用食料備品等の定期更新と学生配布の機会を活用した防災イベントの開催、シミュレーションに基づく防災マニュアルの検討等）の強化・高度化 ②-1 研究費不正使用防止計画（2025年度～2027年度）の着実な実行 ②-2 <u>コンプライアンス推進体制の強化及び職場におけるパワハラや大学特有のアカハラに対する確固たる対応の実装・定着</u> ②-3 全ての学内規程等の計画的な点検・見直し		
24. 自己点検・評価の実質化と認証評価への適切な対応 ①-1 学長等と各事務室・各学科・各研究科との連携強化 ①-2 <u>第4期認証評価受審に向けての体制整備及び第4期認証評価における基本的方向性を基軸に据えた準備開始</u> ②-1 自己点検・評価の客観性・外部性の強化（定期的な自己点検・評価、全学点検評価委員会によるアセスメントプランに基づくモニタリング・プログラムレビューの実施及び検証と外部有識者による新たな評価の準備）の整備及び運用定着		

評価指標

- ❶ 第3期認証評価の追評価の完遂と適合認定の確保
- ❷ 中期計画に定めた評価指標等を活用した実績に基づく自己点検・評価：毎年度実施し、新たな外部評価を中期計画期間中に少なくとも一回実施
- ❸ 部局等における自己点検・評価の結果に基づく改善状況（学長による改善検討指示数に対する実施割合）：100%

25. 現場力の向上を支援する仕組みの構築・実践

- ① 構成員一人ひとりの活力を相乗的に高める大学運営を確立するため、構造的かつ抜本的な業務マネジメントを再構築し実行する。
- ② 構成員一人ひとりの活力を相乗的に高める大学運営を確立するため、人事マネジメントと組織マネジメントの体質改善を断行する。
- ③ 教育研究現場力の向上を支えるため、持続可能な教育研究体制を構築し、基幹教員制度を適切に運用する。

評価指標

- ❶ 執行系事務の削減時間数：24年度比で一日一人当たり1時間以上
- ❷ 評価の賞与・昇任（降任）・昇格（降格）等への反映、職務ベースの報酬設定その他役割・活躍に応じた処遇の実現
- ❸ 学部・大学院教育体制の再編及び紀尾井町キャンパス事務部の機能化
- ❹ 経営人財の育成を目的とする研修の適格者の受講率：中期計画期間中に100%
- ❺ 総合的な教員人事計画に基づく法令上の教員・教授数の安定的確保

26. 校友等との連携強化

- ① 大学運営に当たって、教職員と学生の参加や校友と父母の協力のもとに社会連携を進めて大学の発展に努めると共に、校友等（卒業・修了生、在学生、父母等、現旧教職員等）とのネットワークを強化する。

25. 現場力の向上を支援する仕組みの構築・実践

- ①-1 事務機構における各部署の連携強化（②にも対応）
- ①-2 業務マニュアルの作成・管理の標準化
- ①-3 不要な会議・業務の廃止及び定型業務の集約化の実装
- ②-1 良質なマンパワーの増強と多様な努力が報われる人事処遇システム（評価指標の改善、評価の賞与等への反映、諸手当の見直し等）の計画的整備
- ②-2 大学職員養成プログラムの企画・整備及び運用開始
- ②-3 国内外における戦略的な学生募集に関する活動その他の戦略的経営・運営を支える組織マネジメントの実装
- ③-1 現行組織（学部学科・研究科）の再編を視野に入れた教育研究組織・キャンパス機能の再編・機能強化等の検討・実施
- ③-2 学部・大学院教育体制の再編を組み込んだ総合的な教員人事計画の策定・実施

26. 校友等との連携強化

- ①-1 大学と同窓会・父母後援会との連携及び助成支援の在り方の検証及び見直し
- ①-2 校友ネットワークの計画的拡充と校友サービスの拡充
- ①-3 留学生同窓会の設立検討・準備

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 208 292 562">評価指標</td><td data-bbox="292 208 807 562"> ①卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ②大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を23年度比3倍増 ④校友の参画による広報の活動数：年3件以上 ⑤校友の意見反映による施策の実施：年2件以上 </td></tr> </table>	評価指標	①卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ②大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を23年度比3倍増 ④校友の参画による広報の活動数：年3件以上 ⑤校友の意見反映による施策の実施：年2件以上	①-4 <u>大学と校友等とのプラットフォーム</u>（校友会（仮称）：卒業・修了生、在学生、教職員及び旧教職員を校友とし、各種の支援事業、情報提供や校友同士の連携・ネットワークの構築・強化を目的とするもの）の検討・準備 ①-5 「ホームカミングデー2026」の企画・開催 ①-6 大学運営に校友の意向を汲み入れる施策の試行実装及び検証
評価指標	①卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ②大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を23年度比3倍増 ④校友の参画による広報の活動数：年3件以上 ⑤校友の意見反映による施策の実施：年2件以上		
27. 快適なキャンパス環境の整備 ①多様な価値観が交流し、多文化が共生する開かれたキャンパスの実現を目指して、各キャンパスの特性を踏まえたビジョンに基づく整備計画を具体化し、省エネ・環境負荷軽減やウェルビーイングに配慮した戦略的施設マネジメントを推進する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 913 292 1628">評価指標</td><td data-bbox="292 913 807 1628"> ①キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ②施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度一回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ③施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024年度比で5割減 ④多様な財源の活用による施設整備：本中期計画期間中に1件契約 ⑤大学の玄関口としてのJR東金線求名駅整備の完了 ⑥エネルギー使用量の削減：24年度比5%減 ⑦CO₂排出量の削減：13年度比40%超減 </td></tr> </table>	評価指標	①キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ②施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度一回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ③施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024年度比で5割減 ④多様な財源の活用による施設整備：本中期計画期間中に1件契約 ⑤大学の玄関口としてのJR東金線求名駅整備の完了 ⑥エネルギー使用量の削減：24年度比5%減 ⑦CO₂排出量の削減：13年度比40%超減	27. 快適なキャンパス環境の整備 ①-1 JIU キャンパスマスタープランの策定体制の整備及び検討開始 ①-2 施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査の計画的実施並びにその結果の活用 ①-3 <u>キャンパス内全面禁煙</u>（全面禁煙ロードマップ公表、建物に隣接する喫煙所の廃止、建物に隣接しない喫煙所の精査・縮減、就業中の喫煙禁止、紙巻たばこの使用禁止〔灰皿撤去〕、残留受動喫煙の防止、禁煙教育等）の段階的実装 ①-4 市民・校友等にも開かれたアメニティスペースの継続的整備・充実の実装 ①-5 <u>交通・防犯環境</u>（求名駅跨線橋問題・バリアフリー化に伴う環境整備を含む。）の計画的整備 ①-6 本学にふさわしい環境マネジメントシステムの導入及びカーボンニュートラルに向けたロードマップの策定
評価指標	①キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ②施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度一回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ③施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024年度比で5割減 ④多様な財源の活用による施設整備：本中期計画期間中に1件契約 ⑤大学の玄関口としてのJR東金線求名駅整備の完了 ⑥エネルギー使用量の削減：24年度比5%減 ⑦CO₂排出量の削減：13年度比40%超減		

2026 年度事業計画（法人）

中期計画	2026 年度事業計画				
財務					
1. 収支の改善 ① 経常収支差額 教育研究を持続的に発展させるとともに、施設設備への投資を適切に実施するため、本中期計画の最終年度までに経常収支差額を安定的にプラスとし、財政基盤の強化を図る。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td>① 経常収支差額プラス</td></tr> </table> 2. 収入の安定確保 ① 学納金収入 現下の経済社会の変化に対応する教育研究組織の再編及び教育プログラムの見直しを通じて、学生募集の強化を図り、学納金収入を安定的に確保する。 ② 外部資金獲得 補助金、寄付金等の外部資金獲得を強化する。 ③ 資産運用 これまでの資産運用の在り方を見直し、外部の専門的知見も活用しつつ、リスク管理に留意して収益率の向上を目指す。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td> ① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上 </td></tr> </table> 3. 支出の適切な管理 ① 経常経費節減 各種既存事業の見直し、業者選定の見直し、IT 化・DX 等を通じて経常経費の節減を図り、経費支出の規模を適切に管理する。 ② 施設設備計画 紀尾井町キャンパス 3 号棟の増築事業を実施（2028 年度竣工予定）。既存の施設設備は、更新・改修を適切に実施し、維持管理に努める。	評価指標	① 経常収支差額プラス	評価指標	① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上	1. 収支の改善 ①- 1 収入・支出の分析と今後の見通しを踏まえ、教育研究基盤の改善に努めるとともに、収支改善に向けた施策を策定する。 2. 収入の安定確保 ①- 1 入学定員の充足状況に課題のある学部・学科について、対応策を検討・実施する。 ②- 1 補助金、寄付金、受託事業等の外部資金につき増収に向けた取組を進める。 ③- 1 リスク管理に留意しつつ、外部委託運用を活用して運用収益率の向上を目指す。 3. 支出の適切な管理 ①- 1 収支改善に向けて策定する施策に基づき、計画的な経費の削減を実施する。 ②- 1 紀尾井町 3 号棟増築事業を計画に従って進める。 ②- 2 経年劣化した施設設備の更新・改修を実施する。
評価指標	① 経常収支差額プラス				
評価指標	① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上				

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 241 292 338">評価指標</td><td data-bbox="292 241 807 338"> ①経常支出削減 ②紀尾井町キャンパス 3 号棟増築 </td></tr> </table>	評価指標	①経常支出削減 ②紀尾井町キャンパス 3 号棟増築			
評価指標	①経常支出削減 ②紀尾井町キャンパス 3 号棟増築				
人事					
4. 人事制度の見直し ①人事制度の見直し 業績評価や職責が処遇に適切に反映されるように、現行人事制度の見直しを実施する。教員については、基幹教員制度を活用するとともに、クロスアポイント制度を導入する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 741 292 792">評価指標</td><td data-bbox="292 741 807 792">①人事制度見直し</td></tr> </table> 5. 人材獲得及び人材育成の強化 ①人材獲得 中期的観点からの戦略的な人事計画を策定し、適切な教職員体制を整備するために必要な人材を獲得する。 ②人材育成 職員の各階層に応じた研修を充実させ、本学の発展に寄与する人材を育成する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 1240 292 1337">評価指標</td><td data-bbox="292 1240 807 1337"> ①人事計画策定・実施 ②研修計画策定・実施 </td></tr> </table>	評価指標	①人事制度見直し	評価指標	①人事計画策定・実施 ②研修計画策定・実施	4. 人事制度の見直し ①- 1 職員の職務と責任に応じた給与手当の見直しを実施する。 ①- 2 基幹教員制度の活用を進める。 5. 人材獲得及び人材育成の強化 ①- 1 人事計画に基づき、教職員体制を適切に整備する。 ②- 1 職員各階層への研修を適切に実施する。
評価指標	①人事制度見直し				
評価指標	①人事計画策定・実施 ②研修計画策定・実施				